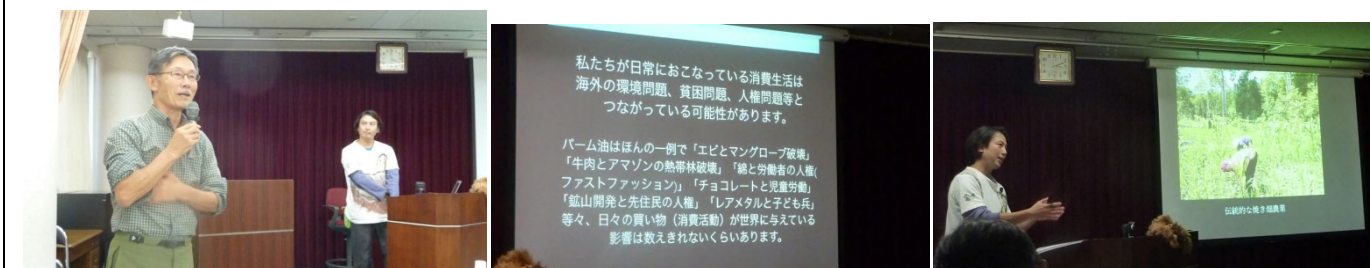


平成 28 年度 第 14 回講演会 記録

日 時	平成 28 年 11 月 12 日 (土) 13:00～16:00		
会 場	国民会館		
講 師	ウータン・森と生活を考える会事務局長 石崎 雄一郎 先生		
演 題	ボルネオ島オランウータンの未来と私達の暮らし		
備 考	参加者数 144 名 (会員 136 名、非会員 8 名)	記録	西尾光市



《講義の概要》

- ①オランウータンは熱帯雨林の生態系の頂点にある存在、その取り巻く諸問題を考えることは、すなわち人の問題を考えることに通じる。ウータンの生活基盤である熱帯雨林は伐採され、熱帯材として輸出され跡地にはプランテーション農業が営まれる。
- ②ボルネオ カリマンタン島には、焼畑・段々畑・熱帯ジャングルが延々と広がる。先住民の案内でジャングルに入ると実に多くの野生生物に出会う。ここは鳥類や昆虫好きの人にとってはたまらないホットスポット。地球規模でみると、ホットスポットは赤道沿いに存在するが、実は日本もホットスポットとみなされている。
- ③森林火災の規模と環境への影響は深刻。煙害はインドネシアのみならず、近隣のシンガポールやマレーシアにも及ぶが、その森林火災の原因となっている開発は主にシンガポール資本によるものである。森林火災の原因は焼畑と思われることが多いが、実は泥炭湿地の燃えやすく鎮火しにくい地質が影響している。
- ④アブラヤシから採るパームオイルは、食用油、洗剤、化粧品などに多用され、マレーシア・インドネシアが主産地となっている。アブラヤシ収穫後短時間で加工する必要があることから、そのプランテーションは著しく大規模化しており、もっとも小さなプランテーションでも環状線の内側の面積に相当し、全てのプランテーションを合わせた総面積は日本列島の面積に比肩する。
- ⑤オランウータンとは「森の人」の意、感情的には人間に最も近いとされ、子育ても約 6 年かけて行なわれる。
- ⑥アブラヤシプランテーションで働く従業員、労働者、さらには先住民族などさまざまな立場からの意見を聴取し、森林農法のあるべき姿について考察すれば、大規模開発に頼らない生産性向上のしくみづくりが急務であることがわかる。伝統的な焼畑農業も、持続可能性に配慮した農法として再評価すべきである。
- ⑦日本国内で出来ることは何か⇒環境 NGO やオランウータン保護センターの活動。森林火災対策への支援、プランテーションウォッチなどを企業向けに働きかける。RSPO では企業と NGO の対話を重視する。
- ⑧私達に出来ることは何か？ ⇒ 持続可能性について認証されたパームオイル使用した製品の購入。環境市民の活動 毎年 8 月にエコツアーを実施。

《田中先生のまとめ》 オランウータンを取り巻く環境問題に向き合っている様々な人々の考えや取組みが紹介され、その中からこの問題の本質は、実は私達自身の問題でもあることに気づかされる。森と海の間に人の里がある。森林の環境を守るために私達に出来ることは何か考える必要がある。来年度はこうした視点から活動を行っているグリーンコンシューマーである京都の環境市民から講師を招きたい。